

## 答 辞

柔らかな春の兆しを感じる季節となりました。

本日はコロナ禍の中、このような盛大な式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。ご多忙の中ご臨席賜りました先生方、ご来賓の皆様方、そして本日は、オンライン中継となってしまいましたが、保護者の皆様方に、卒業生一同を代表して厚く御礼申し上げます。また、山田学長よりご告辞と激励のお言葉を賜り、重ねてお礼申し上げます。

卒業という節目を迎える今、これまでの大学生活と、待ち受ける未来への思いが募ります。期待と不安いっぱいの中始まった大学生活ですが、オリエンテーションの時の緊張や、初めて友達ができた時の嬉しさは今も昨日のこのように思い出せます。

私の所属するゼミナールは、学生達的意思でまち歩きコースを創り上げ、そして実施するという独自のプログラムで、学生の研究地域は、大阪の四天王寺・鶴橋コリアタウン・百舌鳥古墳群・泉南の水間観音から兵庫県の有馬温泉、奈良県のならまちに至るまで多岐に渡っています。その根幹はどれも同じで、まちの歴史やエピソード、面白さを引き出し、参加者のまちへの理解を深めることで、まちおこし・地域振興の効果を発揮していくことにあります。

自らの力でコンセプトからルートの決定、そしてフィールドワークの実施をしなければならないこと、参加者の前でスポットをいかに面白く紹介し、満足させることを常に考えなければならないこと...プロデュースの難しさを痛感し、頭を悩まされることもありました。

そんな困難を乗り越えられたのは、「楽しむ力」を重視する、大阪観光大学の素晴らしい環境のおかげです。参加者に楽しんでもらうためには、まずスタッフ側がまち歩きを楽しむ必要があります。グループメンバーと意見を出し合い、より良いまち歩きコースを模索することを繰り返す日々の中で、最終案を決めただけでなく、一からつくる創造力、皆の意見をまとめる組織力・人間関係構築力、参加者の前で声の大きさ、内容の面白さなどの表現力を身につけることができました。そして、留学生である自分が初めてリーダーを務めることが、自分にとって一番の成長でした。以前はリーダー経験がなく、そして言語の壁もあり、不安も感じていました。しかし、グループメンバーや先生と話す中で、コミュニケーションには言語能力以上に「人間性」が大切であると気付きました。上手く話せなくても伝えようとする姿勢、相手の意見を尊重し、理解しようとする精神、笑顔・気遣いなどが言語や文化の壁を越えて、人と人を結ぶのだと学びました。

「楽しむ力」だけではなく、現代社会を「生きぬく力」も、大学の学びで得たものです。就職活動では、社会という現実を知り、時には自分の未熟さに落胆しました。「自分のやりたいことは何か」、「どのような道に進むべきか」が分からなくなり、自問自答する日々の繰り返しでした。しかし今思うと、この時期は、初めて自分自身と本気で向き合っていた時期だと思います。そんな就職活動を乗り越え、今、社会での新たな目標を持ち、この場に立つことができたのは、社会が必要とされる能力を教えてくれた先生方、就職活動に惜しみない協力をしてくれたキャリアセンターの方々、親身に話を聞いてくれたり、励ましてくれたりした友人、そして、常に支えとなってくれた両親のおかげです。

私達は今日、この大阪観光大学を卒業します。今後大学院に進学し、さらに学問の高みを目指す者も、就職し社会に出る者も、様々な形で各々が決めた道を歩んでいきます。しかし、各々が選択した道は違えど、大阪観光大学の学生であったことは、永遠に変わることはありません。日本社会ではグローバル化が進み、多様性が混在する環境になるでしょう。これからの人生において、大阪観光大学の憲章「自由を共に楽しみ、社会を共に生きぬく」の理念を基に、他者に対して開かれた心を持ち、夢や目標を実現していきたいです。

最後になりましたが、卒業生を代表して、温かく指導してくださった大阪観光大学の先生方、学校生活を多方面からご支援頂いた職員の皆様、苦楽を共にした友人たち、育ててくださったご父母の方々に心よりお礼申し上げます。皆様のご健康と更なるご活躍をお祈りするとともに、大阪観光大学の一層の発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

令和4年3月18日

卒業生代表 観光学部 観光学科 金敏嫻